

3
巡礼の道「ほしのや道」

新橋小学校前の坂道を、土地の人々は「巡礼坂」とよんでいる。巡礼にゆかりのこの坂道は、座間の「ほしのや観音」と横浜の「弘明寺観音」を結ぶ「ほしのや・ぐみようじ道」である。

「ほしのや観音（星谷寺）」と「弘明寺観音」は、鎌倉市の杉本寺を一番札所として、関東一円に点在する坂東三

松陽高校前のほしのや道分岐

十三観音札所の一つである。松陽高校前をはじめ新橋、岡津の道沿いにある「ほしのや道」道標は、札所をめぐる巡礼の道しるべであったのであろう。

神奈川県内にある坂東観音札所は、鎌倉市の杉本寺（一番）、逗子市の岩殿寺（二番）、鎌倉市の安養院（三番）、長谷寺（四番）、

小田原市の勝福寺（五番）飯泉観音、厚木市の長谷寺（六番）飯山観音、平塚市の光明寺（七番）金目観音、座間市の星谷寺（八番）ほしのや観音、横浜市の弘明寺（十四番）ぐみようじ観音の九か所である。

坂東三十三観音札所めぐりは、鎌倉時代頃にはすでに行われていたようであるが、庶民の間で盛んに行われるようになったのは、江戸時代の中頃といわれている。

この頃になると、札所めぐり案内書がいくつか出版されたようである。主なものを挙げると、明和二年（一七六五）の沙門亮盛の『坂東霊場記』、享保六年（一七二二）の朝輝房渴水子著の『坂東順礼行程記』、文化年間に出された永寿堂版『坂東順礼御案内図』、元禄十四年（一七〇二）杉本寺蔵版『坂東三十三所道記』、秩父音楽寺蔵版『坂東道中付』などがあつたようである。



ほしのや道道標

4 境の道「武相国境道」ぶそうこつきょうみち

泉区と旭区の境である緑園六丁目五十三番地の角地に「相武国境之道 南 相州鎌倉郡岡津村 北 武州都筑郡二俣川村」と刻まれた道標が立っている。昭和四十九年十一月、地域の人々が建てた「武相国境道」の道標である。

武相国境道は、聖マリアンナ医科大学横浜西部病院前を通り、県道丸子・中山・茅ヶ崎線を横断し、相模鉄道三ツ境駅裏の瀬谷区と旭区境の道で「相州道」と合流し、耳鼻咽喉科医院前の細い道を経て、相模鉄道の陸橋を渡り、阿久和方面への道を南下し、隼人高校前を経て横浜市環境事業局神明台処分地入口の所を左折し、大池公園の南側の高台の細い道を経て、境木地蔵前、金沢区と鎌倉市との境の道



道標

へと通じる尾根道である。武蔵国と相模国の境は、古代より大体同じようであったと推定されるので、こ



環境事業局神明台処分地付近

の尾根道は、国境に沿った古道であったと思われる。横浜市教育委員会刊『横浜の古道』には、「武相国境道」でなく「武相国境」とのみ記されているが、この道が、武相国境道である。

東海道や鎌倉道のように、紀行文や歴史書などには、ほとんどみえないが、丸子・中山・茅ヶ崎線（中原街道）、相州道（厚木道）、東海道などをつなぐ道として、大きな役割を果たしていたと思われる。

現在、武相国境道沿いは住宅開発が進み、万騎が原や緑園都市などのように様相が一変したところもあるが、旭区と戸塚区の境の大池公園付近の道は、昔の面影を今にとどめ、人々の散歩道となっている。